

学長からのメッセージ

優れた「コンパクトシステム」連環の創出を見据えて

ここに『琉球大学環境報告書2023』をお届けいたします。本誌は、「環境」を基軸に、2022年度における本学の教職員および学生による教育・学修、研究、社会貢献などの諸活動を通じた環境配慮、キャンパスマネジメント、そしてSDGs達成への取組を、広く関係者に報告することを目的に作成されました。



西田 睦
琉球大学 学長

VUCA時代

いま世界は速い大きな変化が続く予測困難なVUCA時代と言われるようになってきました。実際、これまでの常識が根本から揺らぐような相次ぐ気象の異常、疫病の大流行、世界各地での政情の乱れなどが、矢継ぎ早に起きています。また、世界各地で人々の間での格差や分断の拡大、大量生産・大量消費社会の行き詰まりなどの問題が生じています。私たちには、こうした様々な問題が顕在化したこの時代を、どのようにして好ましい方向に向けていくかを探るという課題が課せられています。

Island Wisdom

古くから琉球諸島の人々は、島嶼という限られた空間・資源の中で、持続的に暮らしていくための生き方を見出していました。私たちは、そこから地球温暖化を招いた大量生産・大量消費社会の行き詰まりを乗り越えるための知恵を導き出し、現代に活かすべく、“Island Wisdom”というキーワードを本学のタグラインや中期将来ビジョンに提示しました。これを踏まえて、物とエネルギーが効果的に循環する「コンパクトシステム」を創り出し、その連環を基盤にIsland Wisdomを活かして幸福を実感できる島嶼社会を創生することを、本学の重要取組のひとつと考えています。

RX推進プロジェクトの進捗

その歩みの中で最近とくに力を入れている活動に、「琉大トランスフォーメーション(RX)」推進プロジェクトがあります。これは、デジタル化を通じた大学の諸活動の効率化を推し進めるとともに、それにとどまらず、これまでの慣習にとらわれることなく「楽しく」迅速かつ積極的に行動するマインドと実行力を持った組織へと、自らを変革していくことを目指しています。

2022年の本プロジェクト本格始動から1年あまり。

さっそく様々な分野から多くの成果が出てきています。医療分野(がん登録データの集計効率化、退院支援の充実など)、学生支援分野(授業料免除のしおりの電子化など)、総務分野(兼業手続の電子化など)における成果はすばらしく、これらの分野の推進チームに令和5年度「RX学長賞」を授与したところ です。

さらなる展開

RX推進は、もちろん環境活動促進へも貢献します。使用電力量の低減や施設の維持管理コストの削減のため、定量的な分析の強化を進めます。またRXの学内展開をさらに広げつつ、成功例も活かして病院・医学部の普天間地区への移転事業を推し進めるとともに、隔地化から生ずる課題をデジタル技術活用により解決したいと考えています。

さらに、地域の課題解決に向けての展開にも着手していきます。沖縄県を支える中小企業の多くは、沖縄県中小企業振興会議資料にもあるように、IT抜きの企業活動への限界を感じつつも、ノウハウや人材不足もあって、独力でIT化を進めることに苦慮しています。本学はこれを重要課題と捉えており、①社会人に対するデータ志向型意思決定力やデジタル活用技術の教育カリキュラムの提供、②地域社会ニーズとカリキュラムの整合性を保証する実践的なPBLの実施など、教育・人材育成の面から寄与していく所存です。

このように本学の活動を地域に展開し、地域と協働していくことで、個別では解決困難な諸課題にも産官学連携で立ち向かっていければと考えています。琉球大学は開学以来、地域貢献の精神を堅持してきました。昨今の激しい変化にも的確に即応し、引き続き地域社会の持続可能性の向上への責任を果たしていく所存です。ご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。